

震災後の空き家・放棄地点検による危機意識の共有と地域の方向付け

指導教員	石川県立大学	准教授	住本雅洋	准教授	山下良平
参加学生	大学院	大橋和真	竹中敬雄	端野大夢	
	4年	小笠今日子	日野深友	神尾敬太	宮下巧
	3年	横内歩夢	吉村絵里		

謝辞

活動にご協力くださいました東増穂東部地区みらい活性化協議会の皆様、

地域の皆様に心より感謝を申し上げます。

震災後の空き家・放棄地点検による 危機意識の共有と地域の方向付け

石川県立大学生物資源環境学部 住本研究室・山下研究室
(生物資源経済学・地域計画学)
連携: 東増穂東部地区みらい活性化協議会(志賀町)

【活動の背景と目的】

- ・令和6年能登半島地震により、志賀町東増穂東部地区では農地・住宅が大きな被害を受けた。
- ・その結果、営農継続に必要な地域資源の管理や祭りなどの文化行事の維持が困難になっている。
- ・被災後、住民同士が現状や将来像を共有する機会が不足し、地域の課題認識がまとまりにくい状況が続いている。
- ・地域のつながりが残る今の段階で、地域の課題・価値・将来像を住民が共有することが重要である。そこで本活動では、学生と住民によるワークショップの開催、および地域行事への参加・現地視察を実施し、これらの取り組みを通して、地域住民の危機意識と将来展望の共有を促すことを目的とした。

【活動内容】

■ 7/11 ワークショップ

- ・地域の特徴・被災状況について意見交換。増穂ファームによる地域農業の維持、祭り復活に向けた住民の思いなどの情報収集。神社や農地の被災状況をフィールド点検。

■ 11/29 ワークショップ

- ・住民と学生が複数班に分かれ、学生がファシリテーターを担当。
- ・地図を用いて、家屋の被害状況・空き家状況・居住状況等を班ごとに確認。
- ・地域の被害と現状を視覚的に整理・共有。
- ・地域資源の管理(農地・用排水路・農道)、祭り、生活課題について、今後5~10年を見据えた必要な取り組みを議論。



■ 地域行事参加・視察



圃場視察(7/11)



虫送り(7/19)



富来祭り(8/24)



増穂ファーム米出荷
作業視察(10/4)



草刈り(11/9)

【活動の成果】

- ・地図を活用し地域の被害や現況について視覚的に共有。
- ・地域の方々が地域の現状と課題を再認識し、将来を考える契機となった。

【今後の取り組み】

- ・次年度以降についても、研究室として継続的に、地域の住民の方々による取り組みに協力していきたい。
- ・引き続き、地域との交流をはかり、さらに、地域の営農を通じた地域の活性化に寄与できるように取り組んでいきたい。

1. 活動の要約

志賀町東増穂東部地区では、令和6年能登半島地震のため、営農継続のための地域資源管理や文化的行事の継続的運営について困難に直面しており、ワークショップ等を通じて、地域住民による危機意識や将来展望の共有を図ることを目的とした。

ワークショップのファシリテートや現地の現状や課題の整理を、ゼミの役割とした。

2. 活動の目的

志賀町東増穂東部地区では、令和6年能登半島地震によって、農地や住宅に大きな被害を受けた。それに伴って、営農継続の前提となる農地等の地域資源の管理や、文化的行事の継続的な運営について困難に直面している。このような状況について、地域住民の認識や意見交換の機会やきっかけが不足しており、将来的な展望が共有されていないように見受けられる。地域住民の繋がりが残る間に、地域の課題・価値・将来像について地域住民による認識の共有を図ることが喫緊の課題となっている。

そのため、本活動では、地域住民と学生によるワークショップと、地域からの要望の強かった学生の地域の行事への参加や現地視察を行った。それらを通じて、地域住民による、危機意識や将来展望の共有を図ることを目的とした。

3. 活動の内容

活動内容は以下のとおりである。

- ・ 7/11 地域の視察・ワークショップ（地域住民対象）
地域から、会場の設定、地域住民への声掛けをしていただいた。
- ・ 7/19 虫送りへの参加
地域の行事に参加させていただいた。
- ・ 8/24 富来祭りへの参加
地域の行事に参加させていただいた。
- ・ 10/4 農事組合法人増穂ファーム（当該地域の農業法人）の米出荷作業の視察
- ・ 11/9 畦畔の草刈り活動への参加
地域の行事に参加させていただいた。
- ・ 11/29 ワークショップ（地域住民対象）
地域から、会場の設定、地域住民への声掛けをしていただいた。
- ・ 12/12 意見交換

このうち、ワークショップについては以下のように行った。

7/11のワークショップでは、この地域に初めて関わる学生も参加したため、地域の特徴や被災状況についての基本的な理解を得るため、意見交換とフィールド点検を行った。増穂ファームによる地域農業の維持、各集落が知恵を絞って復活を目指す祭りへの思いなどに関する情報収集を行い、そのイメージをもって神社や農地の被災状況を確認した。

11/29のワークショップでは、集まった地域の方々と学生で複数の班にわかれ、学生がファシリテーターを務めた。初めに、班ごとに、地域の地図を見ながら、地震による家屋の全半壊等の状況と、現存している住宅の居住状況（空き家である場合に、地震前からなのか、地震後からなのか、地震後の場合、一時的なものなのか、そうではないか）を確認した。次に、地震による道路や農地等の被害

状況を確認し、また、地震当日の状況等について紹介していただいた。また、農地の耕作放棄の状況や、野生動物の目撃や農業被害等について確認した。地域の地図に、それらの情報を記入していき、視覚的に被害状況や現在の状況を把握し共有することに努めた（右の写真）。最後に、地域資源（農地、用排水路、農道等）の管理、祭り、地域内で生活していく上での問題について、去年と今年の状況を教えていただき、今後5～10年後を少しでもよくするために、いま何をする必要があるか等について、ディスカッションしていただいた。

4. 活動の成果

とくに11月のワークショップでは、確認した地域の状況（地震の被害や空き家等）を地域の地図に記入したことにより、地域の現在の状況を、視覚的に把握し共有することができたと考えられる。また、これを踏まえてディスカッションしたことにより、参加された地域の方々に地域の現在の状況を再認識していただくと同時に地域の課題・価値・将来像を認識していただくきっかけになったと考えられる。

この11月のワークショップの成果は、7月のワークショップの実施や富来祭りなどの地域活動への参加によって、わずかとはいえ地域の方々と学生の間で交流していたという背景から、地域の方々も内輪の話し合いに留まらず、地域の状況を多少なりとも知っている学生に向けて語りかけるような形で話し合いが進められたことによるものではないかと思われる。



写真：ワークショップで情報を記入した地図

5. 今後の活動計画

次年度以降についても、研究室として継続的に地域との交流をはかるとともに、地域の住民の方々による地域の課題・価値・将来像を考える取り組みに協力していきたいと考えている。また、地域における営農にも関心を向け、地域の活性化に寄与できるように、アイデアなどについての意見交換を行っていきたいと考えている。

6. 活動に対する地域からの評価

以下の評価を頂いた。

「若者と体験・交流できたことは、農業の大切さや震災による営農継続に向けた意欲を強くすると同時に、地域に住む者だけでは考えられない取り組みやアイデアなど、柔軟な発想で意見交換が出来たことが新たな取組へのきっかけともなり、また、自然と笑顔になれる再会も楽しみになっており、故郷に帰ってくる孫を見るようで大変意義深いものがあったと感じている。」